創立110周年記念号

薔薇会だより

会長挨拶

薔薇会会長　宮﨑マサ子

創立一一〇周年おめでとうございます。母校熊本信愛女学院は、本年、創立一一〇周年を迎えられ、心よりお慶び申し上げます。

明治初期、フランスからメール・ボルジア先生は、三名の修道女と共に日本へキリスト教の布教のため来日されました。

ボルジア先生は、救済を必要とする人々の多さから、（一）健康に恵まれない人々の心身の拠り所としての診療所―現在のイエズスの聖心病院、（二）子ども達を預り育てていく孤児院―現在の熊本天使園、（三）女性の生活向上と人間性の開花をめざして玫瑰女学校―現在の熊本信愛女学院を創立され、多くの迫害や苦難にもくじけずひるまず、不撓不屈の精神で活動を行い続けて守ってこられました。

ボルジア先生の神に対する強い信仰心とキリスト教に基づく愛と奉仕の崇高な精神で教育活動を行い、母校を守ってこられましたが先生の崇高な教育方針は時代を越え滔々と受け継がれ一一〇年の長い歴史を刻んできました。

県下の高校の中ではどこよりも早くからボランティア活動が盛んに行われている母校は、二年前に全国での高校では初めてのボランティアセンター設置という形で表しました。昨年末には、設置と活動が認められ、文部科学大臣賞を受賞することになりました。この上もない喜びです。

今も尚、生徒達が、メール・ボルジア先生のキリスト教に基づく愛と奉仕の精神を受け継ぎ実行していることに喜びと誇りを持ちました。

同窓生の皆さん、信愛で学び、信愛の卒業生であることに誇りと勇気をもって、ボルジア先生のキリスト教に基づく愛と奉仕の精神を受け継ぎ実践していってほしいと心から願っております。

では、本年度の同窓会（本部）活動をご紹介いたします。

活動目標「同窓会の輪を広げよう」を挙げて微力乍らも精一杯務めていきます。

（一）毎月第一火曜日、月例役員会を行います。

（二）五月十六日（日）創立一一〇周年記念大同窓会・音楽祭を開催します。

（三）六月五日（土）ばら成人会を行います。二回目の成人式とも言える記念の年を迎える四十才の同窓生を母校へ招待し、共にお祝いをする会です。本年は、昭和六十三年卒業の皆さんです。

（四）七月第一土曜日、第八回支部長会を開き、各支部の情報交換を行います。

（五）十月二十三日（土）、母校の華秋祭に参加し、同窓生の作品展示やバザーを行います。是非、おいでください。

（六）二月末に、卒業していく新クラス役員と本部役員との親睦会を開き、クラス役員の役割を認識してもらいます。

卒業式前日に、同窓会入会式を行います。

毎年、課題として残っているのは、各クラス役員の掘り起こしです。卒業時に、各クラスで決められたクラス役員の皆さん、特に六十代、五十代、四十代の方々、本部より連絡があった時は、是非、おいで下さって共に活動いたしましょう。

最後になりましたが、会員の皆様には、日頃より、同窓会の活動に温かいご理解と多大なご協力をいただき心より感謝申し上げます。

会員の皆様方のご健康とますますのご活躍をお祈り申し上げて挨拶とさせていただきます。

同窓生のみなさまへ

理事長　松尾　京子

創立一一〇周年に当たって、同窓会の皆様とともに、この奇しき神の御手の業を称え、感謝することは私にとっても大きな喜びであります。

思えば、一八七七年（西南戦争の年）、慈しみ深い神の御手に導かれて四粒の種がフランスから、漁村であった神戸の地に着きました。そのうちの一粒は、岡山の地を経て、この熊本の地に植えられました。時はキリスト教迫害の嵐が止んで僅か四年後のことでした。当時の地域社会は、キリスト教を受け入れず、至る所で、シスター達は苦難の道を歩み続けたのです。

創立者ボルジア先生はキリストへの確固とした信仰のうちに、「友のために命を与えるほどの大きな愛はない。」また「私は仕えられるためではなく、仕えるために来た。」とのキリストの御言葉を、生涯、実践し五十六年間の生命を日本人の幸せのために捧げ尽くしました。その間一度も祖国に帰ることはありませんでした。

一九〇〇年（明治三十三年）、このボルジア先生は、熊本信愛女学院の前身、熊本玫瑰女学校を創立しました。以来、一一〇年の歩みの中で、厳しい風雪にも耐えながら、キリストの「愛と奉仕」を自ら実践し、人々に伝えました。その建学の精神は、二万六千余名の同窓生全員一人ひとりの心に育まれ、今もなお、生き生きと息づいているのです。新聞紙上ですでにご存知のように、後輩がボランティア・センターを開設し、校友達に呼びかけて、現在一七〇余名にも上る同志が集まり、積極的な「愛と奉仕」の諸活動を地域社会の中で行っております。昨年の暮れに、その活動が全国的に評価され、図らずも文部科学大臣奨励賞を受賞する喜びに与かることができました。

私たち教職員も、「一つの心、一つの魂」のもと、信愛ファミリー共同体の精神を受け継ぎながら、生徒たちを温かく包み、「聖く、明るく、美しく」、心豊かな女性として、社会に貢献できる人づくりに献身して参ります。

同窓生の皆様、いつでもお気軽に、ふるさと母校にお帰りになり、ご指導とご支援をよろしくお願いいたします。

支部紹介

同窓会や学校からのお知らせが、確実に、早く、多くの同窓生の方々に届くように熊本県下に支部を設立しています。

また、各支部では、地域単位で同窓生の親睦をはかり楽しく活動しています。

皆様のご参加を心よりお待ちいたしております。

薔薇会会長　宮　﨑　マ　サ　子

関東支部
支部長　川　野　映　子

関西支部
支部長　里　内　ハ　マ　子

宇土支部
支部長　内　田　道　子

泗水支部
支部長　高　見　伸　代

南阿蘇支部
支部長　長　野　敏　子

合志支部
支部長　松　本　恵　美　子

植木支部
支部長　福　島　敦　子

小国郷支部
支部長　北　里　香　代

一の宮支部
支部長　松　下　玲　子

熊本南部A地区支部
支部長　木　村　須　美　子

熊本中央A地区支部
支部長　松　崎　幸　子

天草上島支部
支部長　平　田　美　智　子

石垣支部
支部長　高　木　千　景

沖縄本島支部
支部長　亀　島　博　美

熊本北部A地区支部
支部長　村　上　栄　子

熊本西部A地区支部
支部長　窪　京　子

熊本東部A地区支部
支部長　木　村　須　美　子

熊本西部B地区支部
支部長　孫　代　秀　子

同窓生の皆様のご協力をよろしくお願いします。

熊本信愛での思い出

三木　サニア

熊本信愛女学院創立一一〇周年おめでとうございます。熊本信愛が創立一一〇周年をふまえ、益々発展されますようお祈り申し上げます。

本校は、私がシスターとなってからの初めての赴任校ですので、当時の思い出がくっきりと心に残っております。それは昭和三十七年十月一日でしたので、今から四十八年前になります。

当時は現在の本館がまだ半分の大きさで、裏に木造二階建の古い講堂があり、全校生徒が講堂（二階）に入ると、床が落ちはしないかと心配されたものです。

本館の北側に中庭のような形のグランドがあり、そこで全校朝礼が行われましたが、のら犬が十匹ほど集まって来て遊び廻るので、清永先生（体育担当）がそれらを追い払うと、生徒達が「かわいそう！」と抗議したものです。

でも、木村リョウ校長は小笠原流礼法で鍛えたマナーを生徒達に徹底的に教授され、礼も、上半身の角度やタイミングがぴったり揃うよう訓練しておられました。この美しいマナーは今尚熊本信愛の伝統として受け継がれているようですネ。

正しい礼法、躾こそ、熊本信愛女学院の誇りといえるでしょう。この愛する信愛が、神の国の実現のため、世のため人のため、いつまでも奉仕されますよう、お祈り致します。

創立一一〇周年に寄せて

水浦　シヅエ

熊本信愛女学院同窓会のめざましいご活躍（たとえば還暦学年会、薔薇成人会）に感激しているところへ、今年になって母校が創立一一〇周年を迎えるので記念誌の発行を企画しておられるとか、そのための原稿の依頼を受けました。まさに「光陰矢の如し」です。そういえば私も大きな病で死ぬかと思われたのに、いま八十路の半ば過ぎても生かしてもらっています。熊本信愛女学院も神から戴いたその命を受け継いで一一〇年、それを後輩に伝えて行く使命があることを痛感いたします。

紙面も限られていますので、現在私が私なりに取り組んで楽しんでいることをお知らせします。それは熊本信愛同期の小出貢先生のアドバイスがモチベーションになり、俳句に目覚めました。新約聖書に因んで四句。

澄み渡る山上にて聴く真の幸
マタイ五、一以下

網捨つる二人の兄弟波静か
マルコ一、一六～一八

貧しさや隙間だらけの馬屋かな
ルカ二、六～二〇

石投げず静かに去れり梅の下
ヨハネ八、一～一一

信愛の思い出

飽田　一夫

「青葉若葉に風かおりて・・・」と今朝もホールの方から利用者や職員の歌声が響いてきます。思わず私も歌詞を口ずさんでしまいます。信愛を離れてもう十一年になりますが、慣れ親しんだ聖歌は、信愛での記憶とともに私の脳裏に染みこんでいるのでしょう。

信愛での約二十五年間は私にとって最も充実した日々でした。生徒達を預かり育てていくことの責任の重さと面白さを感じながら、自分も成長させてもらうことができた日々だったと思います。高校生に受験指導、進路指導をしながら、この生徒達の望みを叶えてやるためには今何をしなければならないか、何が必要かを必死で考え、実行してきました。時には近視眼的になっていたかもしれませんが、彼女達と正面から向き合い彼女達の本音の望みを引き出し、その実現のために自分ができる限りのことはやったつもりです。また、中学と関わるようになってからは、熊本のような地方都市でミッション系女子校の中高一貫のモデルになるような教育は何だろうと模索し続けました。中学校に多くの行事を用意したのもそのひとつです。

信愛を出てみて思うことの一つは、信愛では「何のために生きるのか」と生徒も教師も常に問い続けられていたのではないかということです。今私は重度の知的障害者の皆さんとともに生きています。これからも自分に何ができるのか考えていきたいと思います。最後になりましたが、信愛のますますの発展をお祈りしています。

飽田先生　苓山寮にて

創立一一〇年に寄せて、回想

水元　英二

私は縁あって、戦後間もない昭和二十二年に信愛に勤めることになりました。

当時をご承知の方は敗戦後の社会の混乱と国民生活の困窮がいかなるものであったかは充分にお分かりのことと思います。

幸い、当時としては珍しい三階建木造校舎は空襲を免れ八〇〇人近い生徒達が学んでおりましたが、言語に絶する食料や物資の不足でモンペ姿、下駄履登校ありの状況でした。

それでも生徒達は明るく向学心に燃えていた事を覚えております。

昭和二十二年に学制改革、女学校三年生迄が新制中学、翌年四年生以上が新制高校となったのですが、後二年間も修学しなければ高卒とならなかった事と、当時の世間一般が、高校という名に馴染まなかったこともあって、職員の必死の説得にもかかわらず、結局最後迄高校に残って第一回卒業生となったのはわずか八名にすぎませんでした。

生徒数は半減し、数名の職員は退職を余儀なくされました。

このような状況の中で、木村リョウ校長に変わり、創立五十周年の式典を迎えたのが昭和二十五年の事でした。

木村校長はこの難局を乗り越えるのに、校内の力を培うために、綿密な躾教育を生徒一人ひとりに手をとって指導されたのでした。

しかしその成果は牛の歩みのように鈍く、しかし極めて確実に成果を示しました。

現在の信愛の揺るがない土台である校風がここに築かれたものと思います。

今、創立一一〇周年の声を聞く時、私は丁度六十年前の創立五十周年とその時代を思い起こさずにはいられません。

世の中は変転極りないものですが、信愛女学院がこの一一〇年の校風の間に育まれた卒業生の皆さんの力で今後も支えられていくものと確信して止みません。

水元先生　愛犬とお散歩

あれやこれや

窪田　正彦

昭和四十六年は、私にとって信愛での教員生活の第一年目で、授業は家政科二、三年、保育科一、二年、衛生看護科一年、それに普通科一年（二学級）担当でした。当時の保育科は二学級ありましたので、合計九学級の責任を任されました。職業系の学科は教科書が同じでも単位数が異なり、さらに、保育科は実習で授業の空白期間がありました。生徒数は一学級五十名を超すのは普通で、家政科の生徒は裁縫台（？）が机で、丸椅子に座っての授業でした。今にして思えば冷や汗が出るような稚拙な授業でも皆様は真剣な眼差しで聴いてくださいました。今はワープロあり、コピー機ありで、印刷は仕上がりがきれいで、しかも簡単にできますが、当時はガリ版に鉄筆で書き、紙は一枚ずつめくっての印刷でした。インクで手もよく汚しました。時代は移り変わり、教育関連機器の目覚しい発達を見ながら、私も三年前に退職致しました。足が不自由で、皆様とは何一つ団体行動はとれませんでしたが、それでも教師として最後まで過ごせたのは皆様の御陰だったとつくづく思います。有難うございました。

昔と変わらず、清楚な制服に身を包んだ生徒を街で見かける時、皆様の顔が重なってまいります。どうぞお元気で。そしてお幸せに。

窪田先生　退職記念アメリカ旅行

豊かな水は流れ続ける

村田　初子

熊本信愛女学院創立一〇〇周年を記念したのが、つい昨日のように思い出されます。雨には悩まされましたが、それは創立の水源から一〇〇年間流れ続けた豊かな水を偲ばせるものでした。肌寒い屋外に比べて、市民会館のホール内には歓喜と感謝が溢れ、熱いものを感じさせるほどでした。

あれから十年、地域社会のご理解、保護者のご協力、同窓生や旧職員のご支援、教職員のご努力が実を結び、ここに創立一一〇周年を迎えられることは誠に喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。

家庭崩壊、人間性破壊、競争と孤独が横行する現代社会にあって、キリスト教を土台とする、豊かな知的及び人間教育は不可欠です。特に、社会や家庭における愛と平和、生命の尊厳を促進するのは、女子校信愛の重大な役割です。生涯をこの使命のために捧げた創立者の水源から水を汲み、私たちも後継者に流し続けて行きたいものです。信愛には未来があります。輝かしい未来の上に神様が豊かに祝福してくださいますように！

祝 熊本信愛女学院 創立110周年

退職された懐かしい先生方に
お祝いのメッセージをいただきました

熊本信愛女学院 創立一一〇周年に寄せて

池尻　ひとみ

熊本信愛女学院創立一一〇周年、心よりお祝い申し上げます。同窓生の皆様にとりましても母校の栄えあるこの記念の年に、感謝と喜びを共にしておられることと思います。私は校長在職中の二〇〇〇年に、創立一〇〇周年をお祝いした事を、今、改めて感謝のうちに思い起こしております。

二〇〇〇年五月五日には福岡教区の司教様司式のもと、近隣の神父様方に集まっていただき感謝のミサが捧げられ、十一月一日には記念式典が市民会館で行なわれ、はるばるフランスから総長とフランス管区長も臨席されメール・ボルジアの日本での偉業を共に讃えてくださいました。次の日にはメール・ボルジアが熊本県の文化功労者に顕彰されました。創立一〇〇周年という節目の年に在籍されていた同窓生の皆様には、感謝ミサや記念式典で堂々と高らかに校歌や聖歌を歌われたことは、なつかしい思い出になっておられると思います。

熊本信愛は一一〇年の歩みを続けた今、メール・ボルジアの精神を受け継ぎボランティアに力を入れておられます。また、熊本信愛の伝統である挨拶やお掃除の徹底等、日常生活の基本をしっかり身につけさせておられますが、これはいつの時代にも大切な事です。

私は現在管区におりますが、折につけ、現校長のシスター松尾から、生徒達の活躍の様子や喜びの知らせを受け、時には、お祈りの依頼を受けたりして、私自身も学校とつながっている喜びを感じております。

また、五月出版予定の同窓会会長様によるメール・ボルジア伝記本「華回廊」を楽しみにしております。

同窓生の皆様が、これからも創立者の精神を受け継ぎ、多くの方々に愛を与える人となっていただきたいと心から望んでおります。

熊本信愛女学院同窓会薔薇会の皆様のご活躍と貴会の益々のご発展を祈願いたします。

創立一一〇周年に寄せて

吉村　正美

おめでとうございます。一〇〇周年のお祝いがついこの前あったように感じています。当時、「百年史」の編集にかかわり、全職員の在職期間を掲載しました。創立者ボルジア先生は明治三十三年から昭和八年まででした。現職を入れ、一〇六五名でした。実に多くの方が職員として関係しておられました。私も昭和三十六年から平成十三年まで四十年間お世話になりました。ボルジア先生の在職中の昭和三年から勤務された「寺尾ミノ先生」「松本ミドリ先生」は当時まだ現職で、ことあるごとに創立者の話をされました。このたび同窓会長が中心となられ、創立者伝記をまとめられたのは嬉しいかぎりです。一〇〇周年を期に「旧職員の会」が発足しました。あの日、一緒に一〇〇周年をお祝した、前校長シスター田川シゲ子先生、池田進先生、野中公誠先生、ほか多くの職員がご逝去になったのは淋しく感じます。しかし毎年、西合志グランドでの花見会や、文化祭には旧交を温めています。私も退職後は地元で、自治会、公民館、社会福祉協議会など、新しい出会いを楽しんでおります。「暗いと不平を言うよりは、進んで明かりをつけましょう」の信愛精神で、卒業生の皆様にも近況を届けております。学院の発展と皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

吉村先生　お庭でお孫さんと

この十年間を顧みて

小出　貢

熊本信愛女学院創立一一〇周年を心からお祝い申し上げます。

思えば、創立一〇〇周年に学院をあげて、カトリック精神にもとづいた女子教育に取り組む決意を新たにし新しい世紀へと歩みを進めてこられましたが、児童数の急減、不況等の厳しい現実を乗り越えることは同窓会である薔薇会の宮﨑会長を中心とする、母校愛と母校の教育が世に欠かせないとの涙ぐましい努力があったから可能でした。神からいただいた一人ひとりのかけがえのない生命を輝かすことを願う教育、中高一貫教育が理解され、次のステップへの礎がおかげ様で出来た十年だったと思います。加えて国際経験豊かな、松尾京子校長先生をお迎えした学院の実りは豊であると確信しています。薔薇会の皆様の姿にカトリック精神の生きたしるしを見る思いでした。

学院の教育目標が他校と異なるのは『カトリック精神にもとづく』の文言です。神と人に対して己の信と愛をつくすと要約されるでしょうか。学院の平常の生活の中にこのことが生かされて木洩れ日の輝きを放っているのが学院でした。十一代校長の田川シゲ子先生ですが、校長室で声をかけるが憚かれる位よく祈って（ロザリオ）おられました。私に気付かれて『私の力だけでは一四〇〇人の私の子供に手が届きません』また問題をかかえた生徒達に接するときは、身をかがめて寄り添いまず痛みを共にしておられました。『私の心や手が温かくなければ　どうして心や手の冷えた生徒を温めることが出来ますか。身をもって接してはじめて心が通じます』と。シスター田川先生も昨年一月二日に帰天されました。こうしてカトリック精神は様々な人、かたちで学院の内外で生き続けています。一隅を照らす光も集まれば世界の希望となります。薔薇会の皆様に神様の恵みが豊にありますように。

卒業アルバム 第一号製作の思い出

森川　昭典

小出先生　金婚式のお祝い

創立一一〇周年お目出とうございます。

私が信愛を定年退職したのが昭和が終わる一年前昭和六十三年三月でしたから、もう二十年以上も前になります。昭和二十六年から講師時代を含めて四十二年間勤めさせていただきました。「ばらのかげ」の一〇〇周年記念号に「四十年間を振り返って」という題で「発展期」「全盛期」「転換期」と分けて私の思い出を述べましたので今回はそれ以外の事について述べさせてもらいます。

それは現在も続いている卒業生全員が必ず卒業式の日に手にする「卒業アルバム」の事について述べたいと思います。

私が信愛に勤務しはじめたのが昭和二十六年の春からでした。その頃はまだ旧制中学校の残りが続いており、新制高校は普通科(A)組と家政科(B)組の二クラスだけでした。その翌年に商業科(C)組が出来、しばらく一学年三クラスの時代が続きました。私も二十七年迄は担任がなく勤めはじめて二年目でもありましたので何かをはじめたくて理科の教師でもありましたので学校にあるカメラに興味を持ち写真に熱中しはじめました。そして思い付いたのが「卒業アルバム」の件でした。学校のすぐ隣に末永写真館があり、そこが九州女学院（現ルーテル学院）のアルバムを作っておられたので写真館に相談し、勿論学校の職員会にも計って昭和二十八年度から「卒業アルバム」を作ることに決定しました。その最初のアルバムを作ることになった学年が、現在薔薇会の会長をしておられる宮﨑マサ子（旧姓永石マサ子）さん達の学年でした。

二十八年四月永石さん達が高校三年生になってからすぐA、B組からアルバム委員を三名ずつ出してもらい、末永写真館と打合せをしました。アルバムに何を載せるか？「学校行事」「授業風景」「グループ写真」等々決定し、早速写真を撮りはじめました。私も二十八年からはじめて担任を持ち、何かとあわただしい日々が毎日続きました。

生徒達がグループ写真を撮るのに校外(熊本城、植物園、太洋デパート等々)に出かける時は私もカメラを持って行き、一緒にいろいろと撮って巡りました。校内での行事の時は毎日のように三階迄走り回って撮っていました。

そんなにして一年があっという間に過ぎ、二十九年三月一日卒業式の日「アルバム」が完成し、卒業生一人ひとりに手渡され、皆飛び上がって喜び合う姿が今でもはっきり眼に焼きついています。

私もカメラを持っていろいろな場所を撮って巡りましたが、信愛の古き良き時代に学んだ旧校舎の全景写真を載せておきます。

これだけの運動場で体育大会(運動会)をやったり、三階建の木造校舎で文化祭（家政科の和洋の展示、商業科の(模擬)信愛銀行等々）をやりました。この写真を見て昔を懐かしむ人達も沢山おられると思います。

この木造の三階建の校舎は当時としては珍しい建物の一つでした。

「卒業アルバム」が信愛女学院が存続する限り続けて製作される事を念じ、又信愛女学院の益々の発展をお祈り

いたします。

森川先生　国分尼寺の石碑

信愛との縁は今も・・・

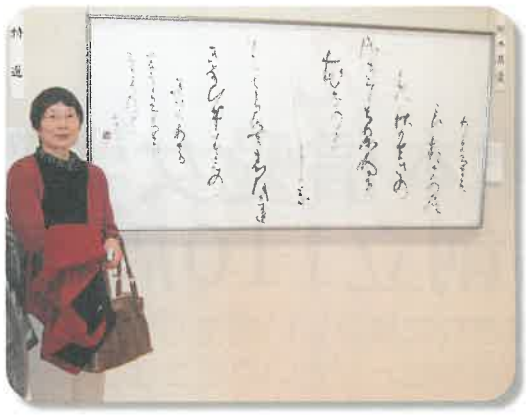
大久保　倫子

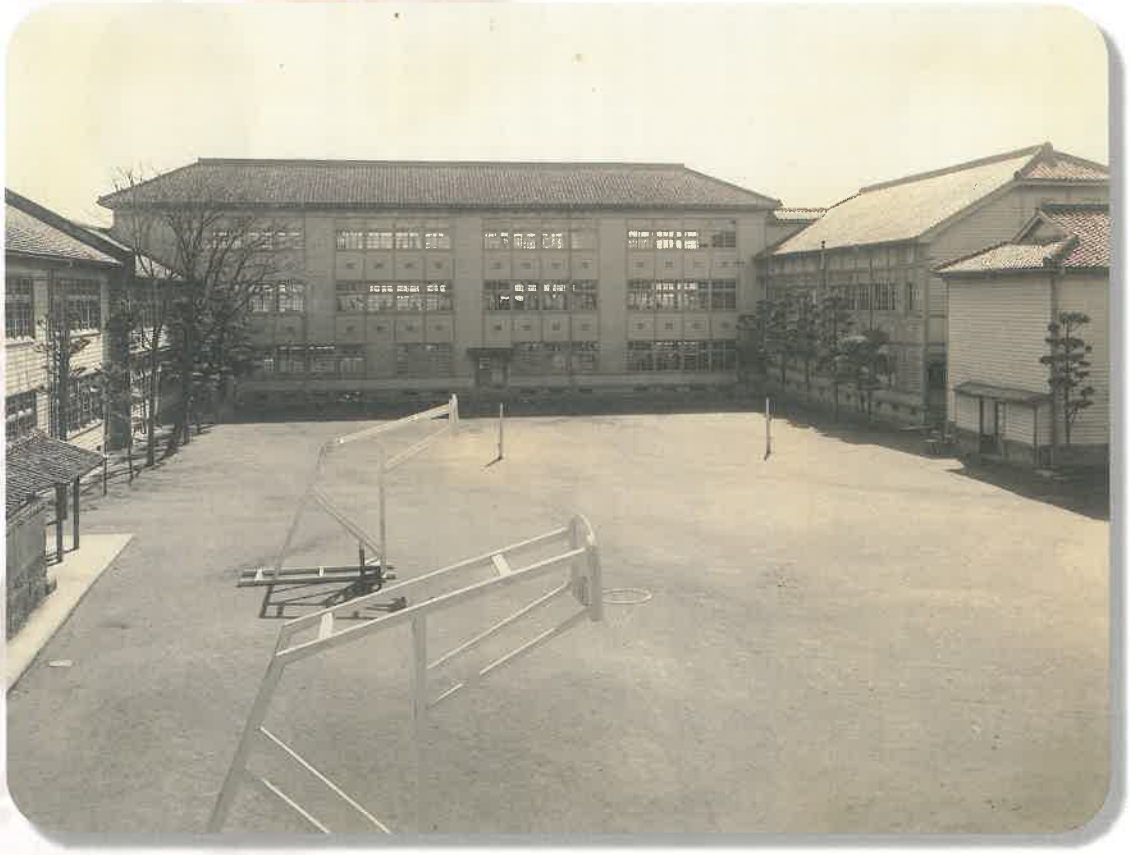
信愛女学院高校創立一一〇周年、まことにおめでとうございます。その中の、三十二年間を奉職させて頂きました。

今、私は、社会教育の場としての公民館の講座で、古典文学を担当し、多くの社会人の方へ古典文学の面白さを伝える活動を行っています。まさに、信愛の国語教師として培った知識と経験が生かされる場に身を置いているのです。万葉集や源氏物語を原文で読み、昔の人の生き様や考え方を知り、優美な文章に触れる機会を持てる嬉しさとそれを人々に分かち合える喜びを感じながら講義をしています。又、自宅での古典講座も今年十五年目を迎えます。弟子の中には信愛の保護者だった方が十年以上も来られています。

以前、信愛の作法室の床の間に掲げてあった「信愛」の文字に魅せられ、揮毫された書家の先生に師事して三十数年、私も、ここ三年続けて日展に入選できました。今、書道の弟子に二人、卒業生が来てくれています。

私の人生の大半を信愛女学院高校で過ごし、退職して尚、信愛を身近に意識しながら生きる、この感謝の心をお伝えできたらうれしく思います。ありがとうございました。


大久保先生　書道でご活躍中


南側から見た旧校舎（昭和29年頃）

信愛女学院在職中の思い出

小田　干城

薔薇会創立一一〇周年記念大同窓会の開催を心よりお祝い申し上げます。

私は昭和四十三年から平成十七年までの三十七年間奉職しました。現在は生徒数も少なくなっていますが、私が初めて担任を持たされたのは就任して三年目で、一クラス六十四名の商業科のクラスでした。その当時は独身の男子先生には担任は持たせていただけませんでした。授業時間も土曜日を除き毎日七時間行われていました。現在は普通科と商業科だけですが、その当時は学院は普通科、商業科、家政科、保育科、衛生看護科の五つの科に分かれ、一学年の生徒数が十一クラス、五五〇名程の多人数でした。学校全体が活気に満ち、特に春の大運動会や秋の文化祭、冬のクリスマス祭等の学校行事はそれぞれの科が中心となり、その科の特長を生かし活発に行われていました。

最近の高校の修学旅行は北海道、台湾、オーストラリアの三方面に分かれ実施されていますが、従来の行先は奈良、京都、東京方面を汽車かフェリーの交通手段を利用して行われていました。平成十三年に私が学年主任の時に、行先は北海道でスキーと観光目的の旅行に変わりました。交通手段を汽車とフェリーから飛行機に変えるための会議を学年の評議員の方々と何回も重ね決まりました。長年飛行機の利用がなかったのは、もしもの事故を考えてのことのようでした。

最後になりましたが、信愛の躾教育は昔から現在に至るまで高い評価を受けています。私が最初にお仕えした校長は木村リョウ先生でした。挨拶や言葉遣い、女性としての立ち振る舞いは勿論、人として女性はどう生きるか等の精神面の教えも校長自ら厳しく御指導いただきました。

今後も信愛がキリスト教の精神に基づく教育を展開され、益々発展していくことを心よりお祈りします。

小田先生　奥様と一緒に

感謝を込めて

兼子　春美

創立一一〇周年を心からお祝い申し上げます。

伝統ある信愛女学院で三十九年間体育教師として勤務させて頂き沢山の宝物や思い出を手にする事ができ感謝の気持ちでいっぱいです。

私の宝物は何と言っても生徒達でした。その宝物のお陰で多くの仲間や保護者の方達、又色々な分野の方達との出会いや繋がり、そして自分の成長は生徒を通して手に入れたものだと思っています。教師として成長していく過程は、悲喜交々の毎日でしたが、多くの失敗で忘れられないのが若く意気盛んな頃の出来事です。日差しの強い日にトレーニングの一環で手押し車を砂地でやり数人の生徒が手の平にやけどを負い治療をした校医さんに注意を受けたり、ダンスの授業では大きな声とタイコの音で患者さんに迷惑がかかると、隣の聖心病院からクレームがついた事等、教師デビューはほろ苦い思い出です。そんな失敗から学ぶものが沢山ありました。

バドミントン部の顧問になったことも指導者として確立していけたひとつでした。監督の南先生が多忙な為、その手伝いを期に、ずっと部員と共に歩んできました。学校、保護者の支援、生徒の努力が実り、全国優勝やオリンピック選手の輩出と、結果を残してきましたが、日曜、祝日もなく夜は遅くまで練習をする毎日、時には選手から煙たがられながらもしつこい練習に明け暮れた日々は、私にとって貴重な忘れられない思い出になっています。

一つ一つ挙げていくときりがない程に多くの出来事がありましたが、生徒が居たからこそ永い教師生活が充実した楽しい日々で送れたのだと思います。

この先も信愛女学院がいつまでもそこにあり、皆さんの帰る場所であって欲しいと願っています。

兼子先生考案の傘踊りは今も受け継がれています

兼子先生　スペイン旅行

（掲載は順不同とさせて頂きました。ご了承下さい。）

同窓生訪問

今回の同窓生訪問は、昭和四十年卒業の塚本美津代様に寄稿していただきました。塚本さんは、社会福祉法人福芳会理事長として菊池市と菊陽町で保育園を経営されており、社団法人熊本県保育協会理事長、社会福祉法人全国私立保育園連盟熊本県代表などを務めておられ日々、ご活躍されています。

”信愛の想い出“

塚本　美津代（昭和四十年卒業）

信愛女学院高校への受験の動機は、中三の三学期に、熊本市内の私立高校、数校による学校説明会に参加し、宗教色の強いところに興味をもったことでした。

こうあるべき女性の姿を描き、しっかりとした女性を育てていこうという気概を感じました。田舎でのんびりと育った私には、こんな厳しい環境がいいのかも知れないという思いと、キリスト教という未知の世界への憧憬も強く生まれてきました。大正生まれの父は、「女に高学歴は必要ない。」という考えでしたので、大学進学という選択肢は、ありませんでした。迷わず得意なソロバンの授業がある商業科の特待生と決めました。貧乏な我家にとって入学金も、授業料も免除されるこの制度の恩恵に浴せられたことは、大きな親孝行になったことは間違いありません。卒業の年、三年間、授業料を免除していただいた感謝の気持ちを伝えたくて、同じ特待生だった親友の旧姓、吉永美智子さんと、初ボーナスの一部を信愛に寄附したこともなつかしい思い出です。

期待に胸を膨らませ入学したのですが、授業は、新鮮味に乏しく、退屈でしたが、商業科目は、もともと、性分にあっていたのでしょう。商業一般や、簿記、珠算の授業は楽しみでした。ガンで早世された南先生は、教室に入ってこられると、「女臭い、窓を開けなさい」と言われ、授業開始前の空気の入替えをさせられました。一クラス六十名以上の鮨詰めの教室、二十歳の独身男性にとって、乙女に囲まれての授業は、苦痛ではなかったのかと、慮るのは、還暦を過ぎた今だからでしょうか。

高校二年生の一年間だけ、数学を教えていただいた宮川芳子先生には忘れられない思い出があります。大学を卒業されたばかりでしたが、授業は解り易く、テンポよく、時にはユーモアが効いた会話をちりばめての楽しい時間でした。才女の風格が漂っていて田舎娘としては憧れの存在でした。ある日、突然、授業の最後に、先生の退職を聞かされます。その途端教室の空気が凍て付き、私達は泣き出しました。六十名が啜り泣く教室で、先生は、静かに語られました。「私はキリスト様のお嫁になるのだからとても嬉しいの。悲しまないで、どうか笑顔で見送って下さい。」五十年前の別れのシーンと言葉がずっと心に残っています。

月日は流れ、兵庫県西宮市に結婚で引っ越していました。忘れもしません。一九七一年一月、阪急電車の車内で斜め前に座っておられた一人の修道女と目が合いました。宮川先生に似ておられます。チラチラと、覗き見をしますが、声を掛ける勇気がありません。あの別れから十年経過し、オカッパで制服姿の私は、和服姿。宮川先生は地味なスーツ姿から崇高な感じのシスターに、変身されています。目の前のシスターは紛れもなく宮川先生だ。でも、とうとう声をかけそびれてしまいます。

それは、神様に一生を捧げ修道女として、生きておられる宮川先生に比べ、新婚生活を送っている自分が余りにも世俗に染まってしまったようで後ろめたい気分があったからです。

一駅間の二、三分でしたが、色々な想いが交錯しました。その後、数年経ってから、電車の中でみかけた宮川先生と思しきシスターのことが気になり、母校に電話し、幼きイエズス修道会宛に手紙を出してみました。すると、やっぱりお見かけしたシスターは宮川先生でした。現在は、幼きイエズス会フランス本部で会の重鎮として活躍されており帰国の折りは、ご連絡をいただいております。先生の在仏期間中にフランス旅行をしたいと思っています。

母校を巣立ち、四十五年経ちました。母校について思うことは、在学中は、校則が厳しく、好きになれませんでしたが、五十歳を過ぎた頃から、やっと信愛の良さがわかってきました。女性のあるべき姿を学ばせていただきました。

少子化の今、女子校として存続させていくのは、至難のわざとは思いますが、へたに世の風潮に迎合するのではなく、信愛教育の根幹は揺ぎないものとして守って欲しいものです。守るべきものと、生徒や保護者のニーズに合わせて変えていくところ、この見きわめが難しいと思いますが時代にとり残されない変身は必要ではないかと思います。現在は、創立一一〇周年を迎えた信愛女学院の教育を受けられたことに誇りを持っています。今後、母校が益々、発展していくことを心から願ってやみません。応援しています。

菊池市泗水町福本保育園
http://www.fukumoto-hoikuen.jp/

支部だより

支部長
川野　映子

創立一一〇周年おめでとうございます。この記念すべき良き日を皆さまとご一緒にお祝い出来ますことを心より嬉しく思います。

卒業して四十数年。中高六年間を寄宿舎で過ごした私にとって、寄宿舎は姉妹家族であり、教室以上に沢山の思い出の詰まった心の故郷です。

こうして懐かしい先輩や後輩、友達と再会し、一緒に同窓会を準備できるとは思いもよらないことでした。

平成二十年より新会長となり初めての同窓会では、関西や九州方面からも加え八十二名と言う多勢の皆さまのご参加をえることができました。これもひとえに宮崎会長初め皆さまのご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

関東地域の同窓生はゆうに一，〇〇〇人を超えています。中には関東支部や同窓会があることすら知らない方もいます。今後は多くの方に呼び掛け、草の根の交流をはかっていきたいと思っています。

関東支部「ばらの会」では、隔年の同窓会開催や春高バレーの応援など、同窓生の支援や交流に努めております。

昭和三十四年の第一回同窓会より始まり、今年は記念すべき「第三十回」同窓会（十一月二十一日）となります。先輩方より引き継がれて来た同窓会の輪が、これからも皆さまと共に大きく広がることを願っております。

関東地域にとどまらず他方の方々のご参加も心よりお待ち申し上げます。

関東支部よりお知らせ

第30回記念同窓会を開催いたします。
皆様、ふるってご参加ください。

日　時：平成22年11月21日（日）13:00～
場　所：スクワール麹町
東京都千代田区麹町6丁目6番地
TEL 03-3234-8739
URL http://www.square.or.jp/?page_id=11
連絡先：関東地区同窓会ばらの会事務局
三輪　晴美
TEL 03-3415-9242　携帯 090-7245-0524

関東支部役員の皆様（平成22年4月16日）
みなさん、いいお顔で
いらっしゃいますね～。

文部科学大臣賞おめでとうございます

～建学の精神は脈々と～

本校ではボルジア先生のご意志を受け継いで、元々ボランティア活動が盛んでしたが、一人一人に思いはあってもなかなか力を発揮する機会に恵まれないことがあったようです。それを解決すべく、二〇〇八年九月学院内にボランティアセンターが設置されました。この活動が評価され、去る二〇〇九年十二月に文部科学大臣賞を受賞しました。一〇九年もの間大切に守られてきた愛と奉仕の精神を、生徒一人一人が大切に守ろうという意思を持って育て、自発的にボランティアの裾野を広げようとしたことが認められたもので、たいへん喜ばしいものです。

今回は、この活動を中心となって支えた古閑奈美依さん（今年卒業）に寄稿していただきました。

ボランティアセンター設置中心メンバーのみなさま

ボランティアセンター

古閑　奈美依（平成二十二年三月卒）

私は高校二年の十月に校内にボランティアセンターを設立しました。ボランティアセンターとは、ボランティアをしたくても活躍の場がない人や、これまでボランティアをしたことがない人のために、地域で行っているボランティアを紹介したり、新たに学校独自のボランティアを企画して参加者を募ったりする機関です。そもそもこのボランティアセンターを作ろうと考えたきっかけは、生徒会活動を行う中で、これまでは個人や部活動で行ってきたボランティアに関心のあるひとたちの力を一つにし、参加者のすそのを広げることにより、信愛のボランティア活動をさらに盛んにすることができるのではと思ったからです。設立して一ヶ月のうちにセンターの登録者も一〇〇名まで増え、現在では一七〇名もの生徒が登録しています。

ボランティアセンターを設立して最初に突き当たった壁は、どのようにしてこのセンターを多くの人に知ってもらうかということでした。センターを設立してもそのセンターに登録してくれる人がいなければなにもできません。そこで私は少しでも多くの人にセンターの存在を知ってもらえるように、朝礼や終礼の放送で学校に依頼の来ているボランティアを放送しました。また、校内にボランティアセンターの掲示板を作り、常に今募集の来ているボランティアがわかるようにしました。少しづつですが登録者数も増えるようになりました。ほかにも登録者数が増えるにつれて設立当初のセンターの形ではうまくいかないことが多くなり、どのような形をとればもっと動きやすいのかなど多くのことを考えました。しかし嬉しいことも沢山ありました。それは友達から「センターのおかげで、ボランティアに参加しやすくなった。」という声や「今までボランティアに関心がなかったが参加するようになった。」などボランティアに参加したいという声を沢山いただけたことです。自分の活動がみんなのためになったことがとても嬉しかったです。

センターを設立したことにより多くの方との出会いがありました。センターを作らなければ決してお会いすることはできなかったと思います。

私にとってのボランティアとは自分自身を成長させてくれるものです。ボランティアに大きいも小さいもないと思います。ただのあいさつ一つでも大切なボランティアであるということを私は学びました。してあげるのではなくさせていただくボランティアの心、相手への感謝の心、周りへの配慮など私が学んできたことを私だけの中に置いておくだけでなく、少しでも多くを後輩に伝えここ信愛のボランティア活動がもっと盛んになり、信愛からボランティアを発信できるようになってくれたらなと思います。

センターを設立するにあたって多くのことを教えてくださった方々、先生方、いつも一緒に悩み力を貸してくれた生徒会の皆、クラスの友達、そしてなによりセンターに興味を持ち登録してくれた多くの生徒のみなさんに心から感謝しています。ありがとうございました。

薔薇成人会へのお誘い

来る平成22年6月5日（土）薔薇成人会を開催いたします。**昭和63年ご卒業の皆様**、ふるってご参加ください。

＊託児はありませんが、お子様も一緒にどうぞ。
問い合わせ先：090-9579-5595（宮下）まで

日　時：平成22年6月5日（土）
10:30～受付開始
11:00～開会
★ランチを用意しています。
場　所：本校玄関前にてご案内いたします。
会　費：1,000円

華回廊（創立者メール・ボルジア先生伝記）

母校の創立110周年の記念の年にあたり、同窓会は、「創立者メール・ボルジア先生伝記」を小冊子にまとめ、「華回廊」という書名で本にいたしました。

新しく入学してくる生徒や同窓生を始め学院にゆかりある人や熊本の皆様方に是非読んでいただきたいと願っております。

懐かしい信愛の学び舎の写真も載せております。さし絵は、高校2年の美術部後藤花織さんに描いてもらいました。

メール・ボルジア先生が言葉につくせない程の苦難や迫害に会いながらも、神に対する強い信仰心とキリスト教に基づく愛と奉仕の精神で少しもひるまず不撓不屈の精神で立ち向かってこられたことがよく分かります。肝っ玉母さんではなかったかなと思うところもあります。

信と愛とに献身されたメール・ボルジア先生の偉大な業績を知ることにより、信愛で学び、信愛の卒業生であることに誇りをもちます。

皆様、是非、一冊求めて読んでください。

編集後記

熊本信愛女学院創立110周年、おめでとうございます。この記念の年に同窓会の役員をさせていただきとても光栄です。
今号作成当たりまして、多くの先生方や同窓生の皆様方にご支援ご協力をを賜りましたことを心より感謝申し上げます。

編集委員一同

還暦学年会

平成二十一年十月二十四日、本校の華秋祭（文化祭）において還暦学年会が行われました。

今年は昭和四十三年ご卒業の皆様がめでたく還暦をお迎えになりました。

本校の学食で懐かしい級友たちと歓談を楽しみました。

『還暦学年同窓会』に参加して

四丸　一美（昭和四十三年卒業）

昭和四十三年三月、希望ある社会を夢見て、仲間たちと一緒に、この学園から巣立って行きました。本当に早いもので、あれから四十二年も経過しています。その間いろいろな人生経験をしました。

昨年十月の華秋祭での還暦学年会に参加させていただき、旧友や恩師に再会し、非常に懐かしく、感動と興奮を覚えました。実を申しますと、学年を訪れたのは、四十二年ぶりでした。でも、不思議なもので、恩師を囲み、懐かしき友と語らっていると、とても嬉しい気持ちになり、いつの間にか我を忘れ、四十二年という時間の壁がなくなっていました。本当に楽しい有意義なひと時でした。『一〇人いれば一〇の人生があり、一〇〇人いれば一〇〇の人生があります』過ぎた時間の善し悪しに拘わらず、生きて友と語り合えることに私は人生の喜びを痛感しました。

この世に産んでくれた両親に感謝し、そして、当学院で出会った友人に感謝します。今後も、この縁を大切に育んでいきたいと思っています。この場を与えてくださった学院関係者の皆様、諸先輩の皆様、そして現役の後輩の皆様に感謝いたします。薔薇会の皆様のご健勝と幸あらんことを祈念申し上げますと共にさらなる飛躍と発展を願っています。